

1. UOM Summer Program 2011 overview

Summer Program 2011 was held from July 19 to August 5. Fourteen students, 2 from National Chengchi University, Taiwan, 1 from Tungnan University, Taiwan, 5 from Pusan University of Foreign Studies, Korea, 3 from Nanjing Agricultural University, China and 3 from Prince of Songkla University, Thailand and 1 from University of Sao Paulo, Brazil participated the program.

On the first day, the participants paid their respects to UOM President Suganuma and had a short meeting with him, and then were taken around for Campus Tour. From the second day, they were streamed into three classes, namely Japanese Language Class, Japanese Culture Class and Laboratory Research Class, where the participants furthered their own studies. In the Japanese Language Class and Laboratory Research Class, each student made a summary report and made a presentation on the last day. Moreover, they enjoyed Cultural Lessons and Field Trips to experience Japanese culture and society closer and deeper. At the closing ceremony, Prof. Maruyama, the director of the Center presented the diploma of the program to each participant.

It was with great pleasure that we welcomed fourteen students.

We hope that they will keep their motivation and continue their studies in their countries. And, we look forward to more students' joining UOM in the future.

宮崎大学サマープログラム 2011

2007年度の開始から5回目を迎えた今回のプログラムは、国立政治大学（台湾）から1名、東南科技大学（台湾）から1名、釜山外国語大学校（韓国）から5名、南京農業大学（中国）から3名、プリンス・オブ・ソングラ大学（タイ）から3名、サンパウロ大学（ブラジル）1名、合計14名の学生が参加した。

菅沼龍夫学長との懇談やキャンパスツアーに始まり、日本語クラス、日本文化クラス、ラボ・リサーチクラスが7月19日から8月5日までの約3週間にわたって開講され、受講者はそれぞれの希望するクラスを受講した。

日本語クラスでは初級・中級の2つのクラスに分かれ、それぞれのレベルに応じた学習やプレゼンテーション等が行われ、日本文化クラスでは茶道や華道、着付けなど日本の伝統文化体験を実施した。ラボ・リサーチクラスでは、受講生が希望する農学系の研究室に配属され、少人数で研究指導を受けた。また、週末には、ホームステイや祭りへの参加を通して、日本人学生や地域住民と交流を深めた。

閉講式では丸山副学長（国際連携センター長）から受講者一人ひとりに修了証書が手渡され、「宮崎のよい思い出を友人やご家族へ持って帰ってください。また、今回のプログラムでの出会いを大切にしてほしい」と挨拶があった。

チューターとして参加した宮崎大学学生にとっても受講者から刺激を受け、相互に交流を深める有意義な機会となった。

Courtesy Visit to President Suganuma

菅沼学長訪問



Closing Ceremony

修了式で修了証書を手にする受講者と
教員、チューター

2. Message from Instructor 担当講師報告

*Course Instructor: Ms. MITSUISHI Kimiko Course Title: Basic Japanese I

満石貴美子 担当科目：基礎日本語 I

時がたつのは早いもので、3週間のサマープログラムはあっという間に終わってしまいました。充実した毎日を過ごすことができたでしょうか。緊張した顔が並んでいたオリエンテーションが嘘のように、日を追うごとに笑顔が増えていきました。授業のたびに話してくれたチューターさんとの出来事や、おいしかった食べ物の話を聞くのは、とても楽しかったです。

授業の最後の発表では、皆さんがプログラム中に感じた日本について話しましたね。日



本語を使っての生活に加え、チューターと過ごした時間や文化体験の時間は、刺激的なものだったのではないかと思います。今回、このプログラムで出会った人、経験したことを忘れないでくださいね。みなさんと、一緒にこのプログラムに参加できて本当に楽しかったです。授業に参加してくれてありがとうございました。また、機会があったら、宮崎に来てくださいね。

*Course Instructor: Ms. NAGAI Noriko Course Title: Basic Japanese II

永射紀子 担当科目：基礎日本語 II

みなさん、修了おめでとうございます。

台風から始まったプログラムでしたが、その台風をどこかへ吹き飛ばすかのような元気を皆さんが届けてくれたような気がします。皆さんと過ごした3週間は、私にとっても、とても楽しく、充実したものになりました。皆さんはどうでしたか。

今回のプログラムでは「皆さんの話す力を伸ばす」を目標にしていますが、授業での発言も活発で、さらに毎日出される課題にも積極的に取り組んでくれたので、授業後半にはより自然な日本語を話せるようになったのではないかと思います。また、チューターとの交流もプログラムをより良いものにしたのではないのでしょうか。プログラム最後の3日間は、お互いの母語を教え合うという内容の授業を3回行いました。いつもとは違う授業に、最初はとまどったかもしれませんが、でも、それぞれの国や地域の特色を知るいい機会になったと思います。

この授業を通して、日本語だけでなく、自分の国、そして宮崎で出会った友だちの国の言葉や文化にも興味を持ってもらえたら嬉しいです。宮崎で出会った友だちとは、是非これからも交流を続けていってください。そして機会があったらまた宮崎に遊びに来てくださいね。その時を楽しみにしています。



***Course Instructor: Ms. SHIMADA Mayuno** **Course Title: Japanese Culture**
島田繭乃 担当科目：日本事情

今年の日本文化のクラスは、昨年に引き続き、体験型のプログラムを多く準備いたしましたが、いかがでしたでしょうか。茶道・華道・書道・着付けといった伝統文化の体験に加え、具材選びから始まった「たこ焼き作り」や、各自が思い思いに絵や文字を描き、のり付け作業をして仕上げる「うちわ作り」などをしました。伝統文化の体験では、初めは少し緊張したり、畳の上での慣れない正座で足が痛くなったりしていたようですが、あっという間に皆さんの持ち前の明るさで、元気に楽しんでいる様子が見られ、嬉しい限りでした。また、書道も含め、ものを作る時の皆さんの工夫を凝らす様子はとても素敵で、出来上がった作品も個性的で素晴らしく、何より、賑やかで大変楽しい活動になったのが印象的でした。そして、去年はやむを得ず中止となったホームステイも再開でき、「えれこっちゃん祭り」へも参加できたことで、教室の外でもいろいろな体験を通して、日本文化を実感していただけたのではないのでしょうか。



毎回、本当に賑やかで楽しく、皆さんがそれぞれの出身地や文化を越えて徐々に仲良くなっていく様子が見られたことを、一番嬉しく思いました。その皆さんの柔軟で積極的な様子に、私自身が励まされ、たくさんのことを教えていただいたと思っています。今回のプログラムで紹介できたことは、日本文化のほんの一部でしかありません。これをきっかけに、今後もいろいろな国の文化に興味を持ち続けて下さい。またどこかでお会いしましょう。有り難うございました。



***Course Instructor: Assoc. Prof. OHNO Kazuro, Faculty of Agriculture**

Course Title: The Laboratory Research Course ~Frontiers of Biological Science~

Course Name: Safer food and safer agriculture



To our laboratory we welcomed Miss Liu Jia coming from Nanjing Agricultural University in China. She was the third year student with a little education background of food science but no knowledge about Entomology. Hence I spent most of the time in giving lecture of Entomology, Bio-intensive IPM and Conservation Biological Control, with a short time course of research in our experimental fields

managed with cooperative farmers in Kiyotake town. Conservation biological control as one of the tools of ecological engineering appeared to be quite new to her. However day-by-day classroom lecture provided her with an overview of this new science, focusing on environmentally safer and biodiversity friendly agricultures. In our experimental fields, she observed many good bugs attacking bad bugs (pests) and took many pictures. Throughout the course, she learned a lot about how to make a less chemical control plant protection and understood well what she has to learn more about. If she has a chance to learn more about basic entomological and ecological tools for research, it will be nice for her to get more insights about how to produce safer food and how to support farmers who are working in sustainable agriculture. Liu Jia san, you were good and active student. Please do not hesitate to study more about this field and see you again. 再見！

***Course Instructor: Prof. ITAMI Toshiaki, Faculty of Agriculture**

Course Title: The Laboratory Research Course ~Frontiers of Biological Science~

Course Name: Fish and Shrimp Health Management

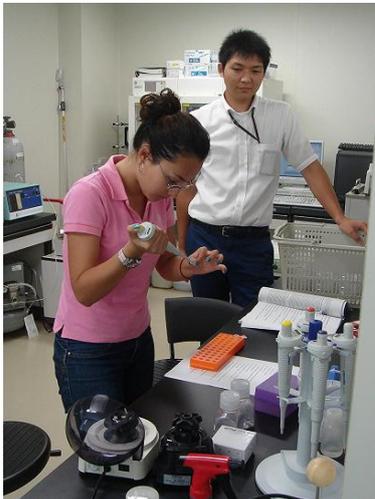
Ms Soykaew Iang-ubon (second year of the master course student) was the fifth student to accommodate in my lab from Prince of Songkla University, so we could discuss about the details of her research subject beforehand and have finally completed our training successfully with high quality. In the course of this program, she learned the measurement of mRNA expression from immune-stimulated shrimp. Also she has established close relations with members of my lab in a short time. For the future collaboration, we need to research on the needs of PSU to broaden and enhance our partnership through this program, welcoming more students to UOM.



***Course Instructor: Prof. AKASHI Ryo, Frontier Science Research Center**

Course Title: The Laboratory Research Course ~Frontiers of Biological Science~

Course Name: Biotechnology and Plant Genetic Resources



We accommodated three students. They have interesting in estimating of somaclonal variation, which occurred mutation from differentiation and regeneration process, in tissue culture methods. They could achieved the degree of variation by flow cytometer and SSR molecular marker. One of the students worked on measuring the genetic diversity of oil palm with genetic cell analysis using flow cytometer. Other students tried to estimate SSR marker. They kept their good attitudes and worked eagerly hard till late at night in the lab everyday throughout the program. Their eagerness brought successful achievements of their researches. Also, they

have been friendly getting along with Japanese students and exchanging their ideas with them actively. The friendship has firmed and deepened for sure through this program.



3. Field Study フィールドスタディの様子



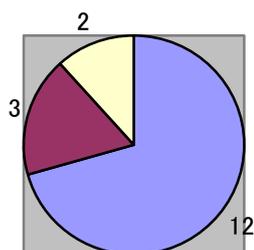
4. UOM Summer Program 2010 Evaluation by Participants

アンケート結果 (参加者 14 回答者 14 回収率 100%)

1) Pre-Arrival 来日前の手續について

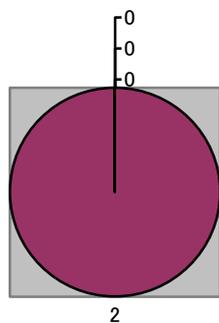
① How did you learn about the UOM Summer Program?

どのようにしてサマープログラムの実施を知りましたか?



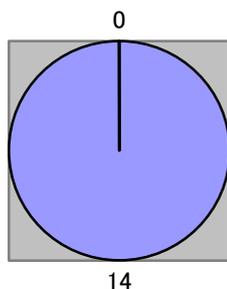
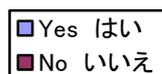
→ If you answered 2 2を選んだ方:

※ How do you think about the website? ホームページについて



② Did UOM staff provide enough information?

スタッフからの連絡は十分でしたか?



③ Comments 意見・感想:

- ・とても親切、不便な事があつたらすぐ助けてくれた(5)
- ・いろいろな事についてずーと連絡をしていた(2)
- ・すべての重要な情報は送ってくれた
- ・いろいろな準備で大変だったので、来日前もっと早く連絡すればいい
- ・宮大のスタッフが私にメールしてくれる時いつもうれしかった。歓迎されていたから

2) Coursework 講義等について

Please fill in your comments and impressions about each of the courses indicated.
講義について意見や感想を書いてください。

① Japanese Language Class 日本語クラスについて:

- ・もっと自然な日本語を話せるようになった
- ・内容がよかった
- ・日本語のレベルがあがった
- ・実際に役立つ日本語を勉強した
- ・自由に会話ができ、他国の人と話せる貴重な機会になった
- ・おもしろかった
- ・レベルにあつて満足、他の外国語を習つておもしろかった
- ・もっと沢山教えてほしかったが時間が短い、すごく役にたった
- ・日本語は少ししか話せなかったが、先生助けてくれて有り難う

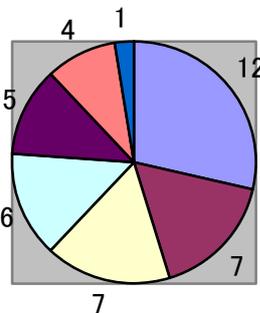
② Japanese Culture Class 日本文化クラスについて:

- ・とても勉強になった(2)
- ・日本の伝統文化を体験できてうれしかった(3)
- ・日本文化を感じられた
- ・全部おもしろかった(5)
- ・日本文化を体験して、日本をよく知った(2)
- ・先生やスタッフは日本語を英語に翻訳しながら教えてくれた

※Please choose the three most appropriate classes, ranking 1 to 3, with 1 being the highest rank.

好きな授業を3つ選び、好きな順番に1-3まで順位をつけてください。

<input type="checkbox"/> Japanese Festival 祭り
<input type="checkbox"/> Japanese for Home stay ホームステイの日本語
<input type="checkbox"/> The Ceremony and Flower Arrangement Experience
<input type="checkbox"/> Calligraphy 書道
<input type="checkbox"/> Takoyaki たこ焼き
<input type="checkbox"/> Wearing Yukata (Japanese Clothes) 着付け体験
<input type="checkbox"/> Japanese for Tea Ceremony 茶道についての基礎知識

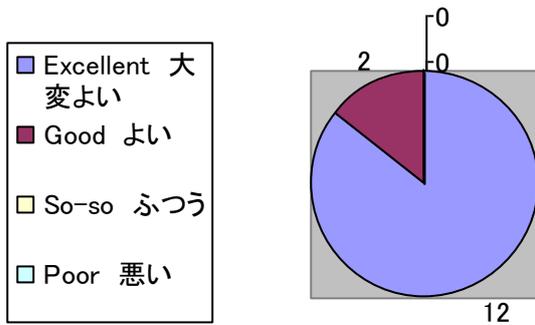


③ Lab and Research Class ラボ・リサーチクラスについて:

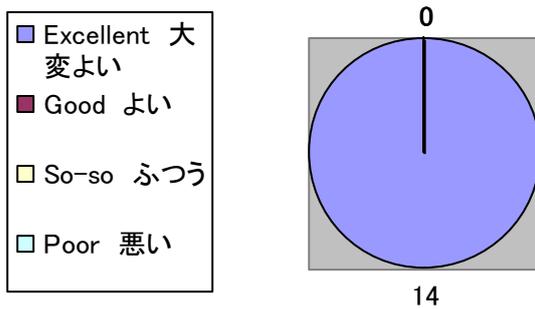
- ・大野先生と研究生達はたいへんよく助けてくれた、先生の研究に興味を持った
- ・伊丹研究室で私は新しい情報を得、新技術を経験し、研究室でいい関係を得た。これは私の調査研究にとって大切である。
- ・研究室の機械にワクワクした。明石研究室にはタイよりもっとハイクな機械がある。研究室のメンバー、特にチューターの中野くんにはお世話になった。
- ・研究室での私の指導者は親切でいつも助けてくれた。彼は忙しい時でもいいアイデアを与えてくれまた説明してくれた。彼は良き指導者で有り良きチューターだ。私の研究室のメンバーは誰かが英語を話せなくても手助けしてくれる。
- ・先生もすべてのスタッフもいつも助けてくれた。

3) Field Trips フィールドトリップについて

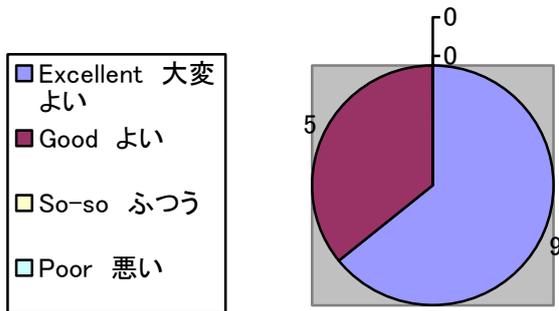
① 7/29 -Aoshima,Udo Jingu Shrine, Obi Castle Town 青島、鵜戸銀宮、飢肥城下町



② 7/30 -Matsuri Erekoccha Miyazaki まつりえれこっちゃんみやざき



③ 8/4 – Saitobaru Archeological Museum, AEON Shopping mall
西都原考古博物館、イオンショッピングモール

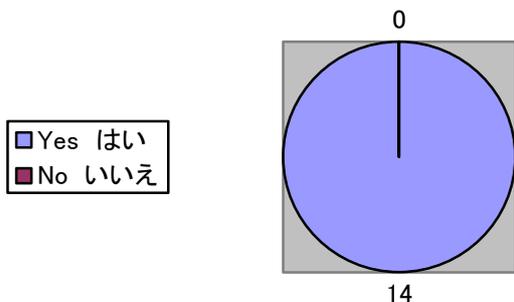


*Comments 意見・感想:

- ・大変楽しかった。いろいろいい所を見に行った(2)
- ・すべていい所です。青島は海の景色がとてもきれいだった。西都原考古博物館はとても好き。昔の人の生活様式がわかった。行ったところは全部好きだった。有り難う。
- ・とても楽しかった。
- ・皆と一緒に旅行するのは本当に楽しかった。
- ・暑かった。
- ・以前から行きたかった場所に行ってうれしかった。
- ・旅行前に訪問地の簡単な歴史を知っておけばよかった。
- ・すべて大変きれいだった。
- ・ほんの簡単な日本語しかできない外国人にとっては、英語を話せるスタッフが良かった。
- ・写真を撮るのが好きなのですが、私が好きな人たちと写真を撮れて気分がよかったです。宮崎について知識のない私に、多くの事を教えてくれてうれしかった。また宮崎大学に来たい。心から！

4) Tutors チューターについて

- ① Did you receive enough support from the tutors?
サポートは十分でしたか？

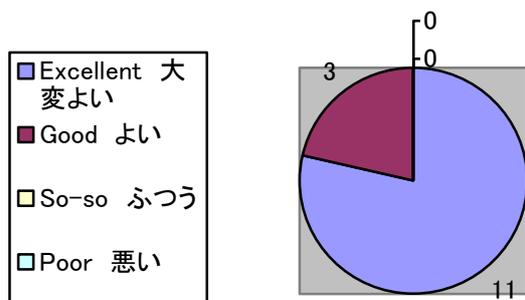


② Comments 意見・感想:

- ・皆とてもやさしい。(3)
- ・優しく、頼もしい、この三週間本当に有り難う。
- ・皆とても親切で優しい。
- ・完璧だった、私の意見をよく聞いてくれた。
- ・一緒に会話したり、宿題や生活面等よく面倒をみてくれた
- ・毎回笑って親切に沢山の事を教えてくれた。
- ・もっと一緒にいたかったが試験中で残念、日本人のお友達ができてうれしい。
- ・皆頼りになり、親切だった。(2)
- ・Good job
- ・驚いた、こんなに親切にしてくれるとは。今は友達が家族同様になったが、本当に有り難く、また私がこんなに良い友達と会えるかどうか、本当に良かった！

④ Lodging 宿舎について

①

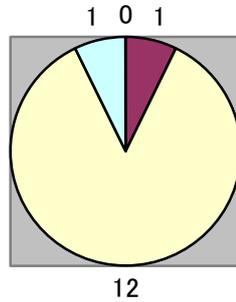


② Comments 意見・感想:

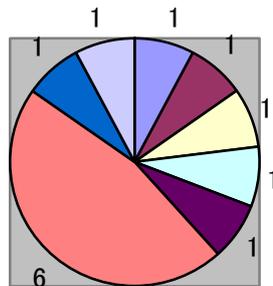
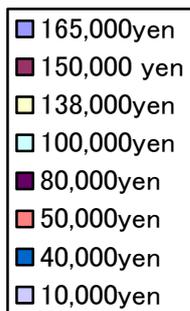
- ・ホルミたい、でも虫が沢山います。
- ・宿舎はとても好き。毎日掃除のおばさんがいるから宿舎に戻って気持ちが良かった。
- ・気持ちいい。
- ・ネットサーフィンができれば完璧。
- ・静かできれいで良かった。
- ・毎日掃除ができて驚いた。
- ・大変良かった。周りに便利な建物がなくてちょっと困った(たとえば、コンビニとか)
- ・ここは居心地がよく安全、好き。
- ・私の部屋は安全だった、心配がなく居心地が良かった。
- ・インターネットアクセス、大きな冷蔵庫があればよかった、毎日の清掃は大変良かった。

6) Program Fee プログラム費用について

①



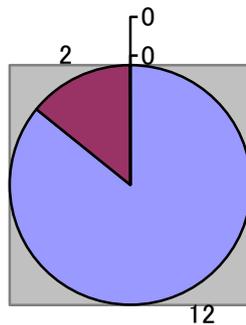
② How much would you be willing to cover with your own money?
いくらまで自己負担してよいと考えますか？



7) Your opinion of the Summer Program overall

プログラム全体についての評価、意見・感想を記入してください。

①□



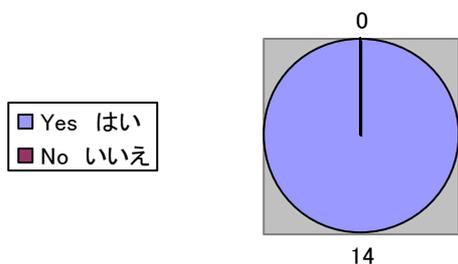
② Comments 意見・感想:

- ・皆が優しくしてくれた、有り難う。
- ・初めて日本に来て本当に楽しかった、一生忘れられない良い思い出です。
- ・忘れられない思い出です。
- ・すごく楽しかったので忘れられない思い出になった、もっとここに居たい、帰りたくない。
- ・このプログラムがもっと長ければいいのに。
- ・すべてに感動した、大変良かった。
- ・日本の言語、文化、自然、親切な人々など沢山触れることができた。
- ・本当に有り難く、本当にすべて良かった。

8) Study in Miyazaki 宮崎への留学について

① Would you be interested in studying UOM as an international student?

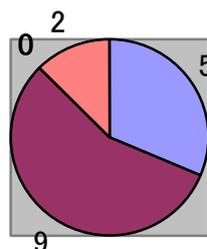
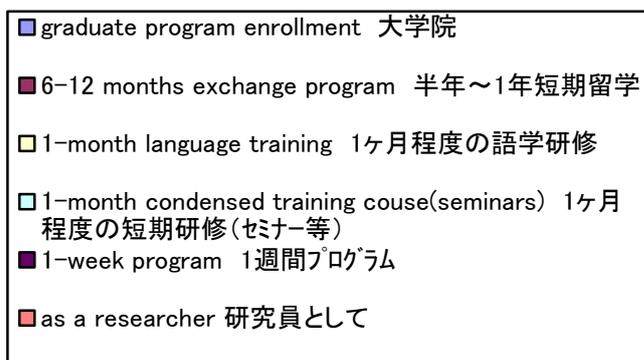
宮崎大学への留学に興味がありますか？



② What kind of program would you consider studying / researching at UOM?

もし宮崎大学への留学を考える場合、こういった形で参加したいですか？

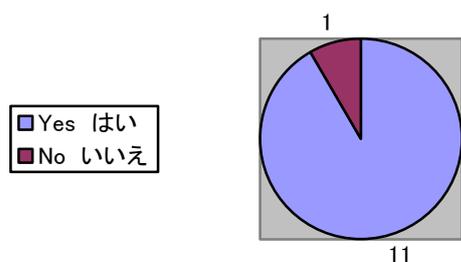
(複数回答)



9) Other その他

① Have you changed your mind about research, study abroad and international exchange?

プログラムの参加前・参加後で、留学・学習・国際理解への意欲に変化はありましたか？

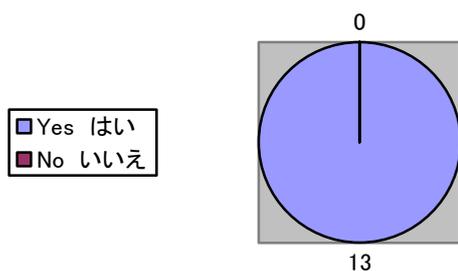


* Comments 意見・感想:

- ・日本に来る前と全然違った、学習の意欲に変化があった。今はやる気満々です。
- ・参加する前は不安でしたが、トラブルもなく来て良かったと思う。
- ・来るまでは日本人と言葉を交わすこと自体が怖かったが、自然に溶け込み自信を持つようになった。
- ・不安だったが、ここで生活していたら、帰りたくなかった、宮大が好きになった。
- ・研究についての考えが変わった。
- ・友人達の助けがなければ、異国に長い間居る事はできない。

② Would you be interested in studying in Japan?

今後、日本への留学に興味はありますか？



* Comments 意見・感想:

- ・日本語も上手になったし日本文化も分かったし参加してもっと日本へ留学したくなった。
- ・機会があれば留学したい。
- ・日本にまた来たい。
- ・宮崎大学は研究用の機械、設備が十分である。専門の教授がいて研究のアドバイスを受けることができるので留学したい。

③ Please write a brief report on the UOM Summer program 2011.

その他、プログラム全体について自由に書いてください。

- ・いろいろな体験をしてうれしかった。夏の学費が安くて有り難かった。縁があったらまた会おう。
- ・違う国の人達と友達になれて良かった。プログラムは面白かった。
- ・先生、チューター皆とても親切、他の留学生といいお友達になった。旅行もとても楽しかった、参加して本当に良かった。
- ・毎年夏のプログラムがあるのならば毎年参加したい。
- ・プログラムの日程が、堅すぎず自由度が高くて、全体的に満足できるものだったと思う。
- ・いろんな事が体験したこのプログラムが大好き。滞在中親切に教えてくれた先生、チューター本当に有り難う。
- ・日本文化もわかりやすく説明してくれて有り難う。一生忘れられない。
- ・先生、スタッフ、チューターに感謝、楽しかった。宮崎大学で有意義な時を過ごした。
- ・宮崎大学には研究するのに十分な機会や設備がある、専門の先生が個人的に指導、助言をしてくれる。日本の文化に興味がある。私は夏のコースCに参加、午前中は日本文化について学び、午後は農学部伊丹研究室で、基礎分子について学んだ、ここで新しい知識を得た。
- ・日本人は親切、外国人と思わずいつも声をかけてくれた、日本文化のクラスでは日本の生活スタイルを知り、また、ラボのクラスでは研究を終え、良い結果を得ることができた、奨学金を給付してくれた日本政府に感謝したい。
- ・研究の中で、私は分子マーカーについて勉強した。私はSSR分析による冷凍保存実験から植物のソマティック変異を調べた。
- ・時間を気にせずに見たり、経験したり、大変多くの事を楽しんだ、日本でのこの時を一生忘れない。
- ・日本語だけでなく日本についてもっとわかるようになった、皆優しくて大好き、短い時間だったがすごく幸せだった、韓国に帰ったら日本人に韓国語を親切に教える、宮崎大学が好き、ここで勉強したい。

5. UOM Summer Program 2010 Evaluation by Tutor

アンケート結果 (チューター20 回答者 11 回収率 55%)

1) 身分・担当について

該当する欄にチェックしてください。

① あなたの所属は？

- 教育文化学部(4) 医学部 工学部 農学部(1)
 教育学研究科(1) 医科学看護学研究科 工学研究科 農学研究科(5)
 医学獣医学総合研究科 農学工学総合研究科

② 担当コースは？

- 日本語コース(5) ラボコース(5) 回答無し(1)

2) プログラム応募について

① チューターに応募したきっかけは？ (複数選択可)

- 掲示板でチューター募集ポスターを見たから(1)
 国際連携センターホームページでチューター募集ポスターを見たから
 教員の紹介(10)
 GSO の紹介
 友人に誘われたから(2)
 留学に興味があったから(1)
 国際交流に興味があったから(3)
 英語による専門分野の授業・実験に興味があったから
 日本語教育に興味があったから
 外国人の友達が欲しかったから(3)

その他：()

② スタッフからの連絡は十分でしたか？ はい(10) いいえ(1)

② 意見・感想

- ・とても楽しく、充実しすぎて別れの日はとても寂しかったです。留学生とは今でも facebook や skype で交流しています。テストと重なっていたため、あまりたくさんプログラムに参加できなかったのが少し残念です。来年も是非参加したいです。
- ・逐一メールで知らせてくれたのでとてもわかりやすく簡単に情報を得ることができた
- ・連絡がわかりやすかったです
- ・相互理解には語学力だけでなく伝える心が必要だと強く感じた。
- ・外国人の友人ができ良い経験となりました。日本に興味のある人達だったので、留学生達の日本語のレベルに驚きました。
- ・とても楽しく参加でき、異文化も知ることができました。
- ・開講式の有無を当日の朝メールして頂きたかったです。

3) 留学生とはどのくらいの頻度で会いましたか？ (複数回答可)

A. 日本語コース

- 毎日 2日に1回(4) 1週間に1回(1) 週末だけ 平日のみ
 日本語クラスの時間帯(1) 日本文化クラスの時間帯(1) 授業終了後(3)

B. ラボコース

- 毎日(2) 2日に1回 1週間に1回 週末だけ 平日のみ(4)
 日本語クラスの時間帯 日本文化クラスの時間帯 授業終了後

意見・感想

- ・プログラムが授業と重なっていることが多かったので、あまり参加できませんでした。
- ・授業に行くことはできなかったがほとんど毎日食堂で一緒に食事を取ったり、授業の空き時間には韓国のお話を聞いたりして良い文化交流になった。昼食以降はこのようにして交流することができたが、留学生の授業時間が午前中だけだったので授業に参加するのは難しかった。
- ・よく一緒に遊びに行きました。
- ・留学生の専攻が本研究室のものとは違い、3週間では千校の導入部分のみの講義や実習しかできませんでした。ラボコースを選択する際、学部生の場合は、専門的な知識があまりないので、少し難しいのではと感じました。
- ・毎日会いたくても会えないのが一番もどかしかったです。

4) 留学生との交流について

①留学生とどのような交流をしましたか？（複数回答可）

- 学習補助(8) 日本語指導(5) フィールドスタディへの参加(2)
 食事に行った(6) 遊びに行った(6)
 その他(1)：(買い物や食事に行った)

意見・感想

- ・週末の時間のある日や、時間が終わった後などに留学生と食事に行ったり遊びに行ったりしました。
- ・フィールドスタディのえれこっちゃん宮崎はとても良い文化交流となった。祭りで踊るのはもちろんだが、出店や宮崎の雰囲気味わうには一番適しているイベントであったと思う。また祭りのあとの交流会では宮崎大学の生徒だけでなく、宮崎にいる多くの外国人と交流することができ、今まで自分たちが知らなかったいろいろなことについて勉強することができた。
- ・楽しかったです。
- ・買い物に行った時、誤った解釈をしてしまい、可哀想な思いをさせてしまいました。しかし、他の留學生が助けてくれて、上手くいきました。彼女には、本当に感謝しています。
- ・留学生に日本の夏を知ってもらおうと、川に行ったり、バーベキューをしたりしました。短い時間だったので、そのような企画をして楽しんでもらおうとしましたが、初めての留學生との交流だったため、どこまでしてあげるのかというのが私自身で少し難しかったです。
- ・留学生との交流の時間はとても楽しかった。
- ・サマプログラム期間が集中講義と重なってしまい、なかなか会えなかった。しかし、その中でもいろいろと話すことができ、非常に楽しかった。また、時間が合わないときは、研究室の先輩や後輩が実験の指導してくれたので、大変助かった上、不幸中の幸いではないが、その分、留學生が研究室の全員と仲良くなることができた。

②大変だったこと、困ったことはありましたか？（複数回答可）

- コミュニケーションが上手く取れなかった(6) 留學生が日本語を話せなかった(2)
 自分の英語が通じなかった(4) 授業・試験のため留學生と会う時間が作れなかった(5)
 文化の違いを感じた(2)

意見・感想

- コミュニケーションにおいては不自由なくとることができました。留学生と触れ合う時間が少なかったことが残念でした。
- テスト期間中ということでレポートや課題の準備をしながらでしか相手できなかった。やはりこういったテスト期間ではなく夏休みに入っている時期の方が良いと思った。しかしテスト期間中だったので授業が終わった空き時間などを使って交流することもできた。
- 留学生との交流が楽しかったです。
- 留学生は日本語を話せなかったけれど、母国の料理を作ってくれたり、飲み会を開いたり、徐々に研究室に馴染んでいっているのを感じました。また、英語を話せないことに研究室のメンバーも落胆していました。結果的に私達の研究室にとって、英語での会話というのはとてもいい刺激になった。